

経済史

飯田恭研究会

神田さやこ研究会

中西聡研究会

飯田恭研究会

— ヨーロッパ経済史・社会史・環境史 —

1. 研究分野

本研究会では、ヨーロッパの経済史・社会史・環境史について学習・研究する。とりわけヨーロッパにおける農業と林業（およびそれを営む社会、それをとりまく環境）の史的発展を長期的に考察しながら、ヨーロッパ史の世界史における特殊性（非ヨーロッパとの違い）と、ヨーロッパ内部の地域差について学習・研究する。

以上の内容について、日本語および英語の文献を読みながら、学習・研究を進める。なお、担当教員の専門はドイツ史であるため、ドイツ語が読める人には是非ドイツ語文献にも取り組んでほしい。

2. 学生への要望

研究会での最終目標は、論文（三田祭論文や卒業論文）を書くことである。では論文を書くとはどういうことか。それは、厳密に言えば、新たな「知」を生産する（オリジナルな説を提示する）ということである。だが、そこに至るためには、まず先人たちが蓄積してきた膨大な「知」（＝著書・論文）を、労を厭わず読み重ね、それを正確に理解しなくてはならない。さもなければ、何が新しい知（オリジナルな説）たりうるのかも分からぬからである。その上で、自ら原史料を読んでそれを分析し、そこから新しい知見を生み出さなくてはならない。

今日のヨーロッパ史学の水準を考えたとき、学部生の段階でこのような厳密な意味でオリジナルな論文を書くことはほぼ不可能である。そこで、ヨーロッパ史で論文を書きたい学生には、英文ないし研究対象地域の言語で書かれた最新の（あるいは日本で未紹介の）著書を読破し、それを日本の学界に向けて紹介する、という水準を達成してほしい。これは一見簡単なことのように思われるが、分厚い洋書を一冊読み上げるのに、先輩たちがいかに苦勞してきたことか。新たな「知」を生産する意欲のある人は、その前に、是非この地道な作業にこそ挑戦して

「知的基礎体力」を鍛えてほしい。

ドイツ語文献にチャレンジする人は特に歓迎する。ドイツ語が未習だが、ドイツ語の文献にチャレンジしたいという学生向けに、三田でもドイツ語初習クラスが開設されている。また担当教員は例年、「専門外国書講読（ドイツ語）」を担当している。積極的に活用してほしい。

研究会では、ヨーロッパとの比較で日本の農業史・林業史の文献も読む。またそのテーマで論文を書くこともできる。日本史の場合、自分のテーマに関する過去の研究文献を読破した上で、史料の分析に取り組み、ある程度独自の知見を生み出すことが求められるが、担当教員には日本史の史料の読解や収集方法について指導する能力がない。

経済学部では、松沢裕作准教授によって「日本史史料講読」という授業が開設されているので、日本史で論文を書きたい学生は、必ずこれを併せて履修すること。

3. 選考について

1. 募集人数：6 名程度
2. 選考内容：レポート・面接・成績表の提示
3. 他学部生の入ゼミ：可
PEARL 生の入ゼミ：不可

4. 選考基準

レポート・面接・成績表から、研究を遂行していく上での前提条件（明瞭な問題関心・勤勉さ・語学力・経済史の基礎知識など）が備わっているかを判断する。

神田さやこ研究会

—アジア経済史—

1. 研究分野

アジア経済史。教員の専門が南アジア(インド、バングラデシュ、パキスタンなど)なので、南アジアに関する研究が中心となる。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび現在の南アジア経済・社会が抱える諸問題(エネルギー・環境、貧困・格差、女性など)を理解するうえで重要な歴史的背景やそのなかでつくられてきた社会的・文化的特徴について、長期的視点にたった研究をおこなう。ただし、中国や西アジア、東南アジアなど他のアジア地域に関心がある学生や、経済史以外の歴史分野(文化・芸術、経営、環境など)や、イギリス帝国史、グローバルヒストリーなどに関心がある学生も歓迎する。

本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることにあるので、各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。3年生の春学期には、(1)基本文献の輪読と討論を通じて、基礎知識および研究の基本的フレームワークを習得し、(2)三田祭発表用共同研究の課題を設定する。夏休み中には、その課題に基づいて多くの文献を読み、皆で議論し、研究を進める。秋学期には、(1)三田祭発表にむけた報告・討論をおこない、論文を完成させる。三田祭後、(2)具体的な卒業論文のテーマを設定し、研究に着手する。秋学期にはインゼミも予定している。4年生は個別に卒業論文の執筆を進め、ゼミでは研究や議論をリードす

る役割をになう。

2. 学生への要望

アジア地域に関心をもち、積極的に課題に取り組むことができる意欲的で主体的にゼミ活動ができる学生の参加を期待します。卒業論文作成に向けての約2年間、英文を中心に多くの文献を読み、議論し、報告し、書いてもらうことになるので、そのつもりで参加してください。

3. 選考について

- ① 募集人数：AB合わせて10名程度
- ② 選考内容：レポート、成績、面接
- ③ 他学部入ゼミ：可
PEARL生受け入れ：可(ただしゼミは基本的に日本語でおこなうので要相談)

4. 選考基準

レポートを重視し、成績(日吉での学習状況)と面接を合わせて総合的に判断する。

中西聡研究会

— (近世・近代日本経済史) —

1. 研究分野

近世・近代日本経済の歴史を多様な側面から研究します。3年生は全員で一つのテーマを選んで共同で研究内容をまとめ、それを三田祭で発表することを目標とします。さらに、首都圏の複数の大学とインターゼミナールを行っているので、三田祭で発表した内容をさらに充実させてインターゼミナールでも発表することが3年生の最終的な目標となります。テーマは3年生の皆さんで主体的に決めてもらいますが、参考にするために博物館見学などを複数回行います。日本経済の歴史に関することであれば、自由にテーマ選択はできます。

4年生は、卒業論文を作品として完成させることを目標とします。卒業論文のテーマも日本経済の歴史に関することであれば自由で、こちらはそれぞれ個別に論文を作成します。もちろん、3年生と4年生の合同で研究会を進めますので、3年生の三田祭論文の添削などを4年生が行うなかで、4年生も卒業論文執筆のルールを学び、逆に三田祭終了後は4年生が卒業論文の中間報告を行うなかで、3年生が卒業論文のテーマを考えていくこととなります。

2. 学生への要望

歴史に関心のある学生を望みます。3年生は全員で歴史のテーマについて共同で論文を作成するので、歴史に関心がないと非常に苦しくなります。中西聡研究会は、三田祭論文に力を入れており、三田祭論文のコンクールで入賞も何度かしておりますので、

歴史をテーマとする三田祭論文の作成に積極的に取り組んでくれる学生に是非入ってほしいと思います。

3. 選考について

1 募集人数

10～12名

2 選考内容 応募願書、日本経済の歴史について何を研究したいかについての2,000字程度のレポートおよび成績表をもとに面接を行います。詳細は、応募者に対して連絡します。

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：否

4 選考基準 願書・レポートの内容、

成績表からみた単位取得状況、面接における質疑応答から判断。

計量・統計

片山翔太研究会

長倉大輔研究会

星野崇宏研究会

片山翔太研究会

— (統計科学・大規模データ解析・因果推論) —

1. 研究分野

経済市場の動向調査やマーケティングなどを行う上で、いまや統計科学・機械学習は欠かせないツールとなってきています。本研究会では特に、統計科学や機械学習自体について深く掘り下げていきます。統計ソフトウェアの普及により、かなり簡単にデータ解析を実施できるようになりました。場合によっては 1~5 行程度のコードを書くだけでデータの解析が可能です。しかしながら、その背後にある理論や方法論についての知識がなければ、誤った結論を導いてしまう可能性が大いにあります。

統計科学や機械学習を適切に「運用」するために、本研究会では先ず 3 年生において統計科学に関連する基礎的なテキストの輪読と、いくつかの重要な統計手法の学習を行います。輪読では、テキストの各節ごとに 1~2 名の担当者を決め、参加者全員が理解できるように説明してもらいます。一方で聴衆は、少しでも納得できない部分があれば適宜質問するなどして、議論を促してもらいます。

4 年生では各自興味のあるテーマに関して、文献調査・発表・ディスカッションを行い、最終的に卒業論文を執筆します。テーマは統計科学に関連することであれば、特に限定しません。因果推論/統計的推測/スパース推定/グラフィカルモデリング (理論)

や、株価データ解析/広告効果の予測/自然言語処理による経済分析 (応用) など、自由にチャレンジできます。

2. 学生への要望

本研究会では考えることを特に重視します。研究を進めるためには、対象についての深い理解が必要不可欠です。理解できるまで考え抜かなければ研究は進みません。また、ディスカッションも重要視します。自分の考えを相手に伝え、そして相手の意見を聞き入れながら研究を進めていきます。そのため、以上の 2 点に苦手意識がないことを求めます。

個別ゼミ・サブゼミの企画や、勉強以外のアクティビティの企画も歓迎します。食事会やスポーツなど企画して貰えれば、私も喜んで参加します。勉強とそれ以外、メリハリを付けて大学生活を楽しんでください。

3. 選考について

1 募集人数

5~10 名

2 選考内容

面接・成績表・エントリーシート

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：可

4 選考基準

面接, 成績表, エントリーシートで総合的に判断します. 面接では, 本研究会で研究・勉強したいことを 7 分程度でプレゼン(形式は自由)してもらい, その後, 片山からの質疑に対応してもらいます. 面接では, 問題設定, 計画性, 説明の分かりやすさを特に重視します. なお, 入ゼミ後に興味の対象が変わっても全く構いません.

長倉大輔研究会

—計量経済学—

1. 研究分野

私の研究会では計量経済学と呼ばれる分野を研究しています。計量経済学とは、経済データを統計的に分析する際に発生する様々な問題を解決する手法について研究、開発し、またそれらの手法を用いて現実のデータを分析する(実証研究)分野です。計量経済学では統計学の手法を基礎とし、他の分野のデータにない経済データ特有の問題を解決するために様々な方法が考えだされています。私の研究会では基本的には計量経済学の理論を学びます。ゼミ生の3年時論文や卒論はそれらを現実のデータに応用した論文が多いですが新たな手法について理論の論文を書くゼミ生もいます。論文のテーマは計量経済学の手法が関連しているのであれば何でも可としています。3年生はいくつかのグループに分かれて10月の終わりまでに論文を書く事を目標として進めていきます。3年生の前半は計量経済学の手法やその手法を実際に実行する際のソフトウェアの使い方(2018年度からPythonというフリーのソフトウェアを使っていま

す)等についてさらに勉強し(講義形式か発表形式かは現在いろいろ試行錯誤中です)、中盤から後半にかけては論文のテーマを探すために既存研究のサーベイ(論文発表)をします。論文のテーマが決まった後はそれぞれのグループ毎に途中経過を発表してもらいます。4年生は基本的に卒業論文を書くことに集中してもらおう予定です。成績はゼミや論文執筆グループへの参加度、貢献度、ゼミ中の態度などを見て総合的に判断して付けます。

2. 学生への要望

- (1) 計量経済学を学ぶ過程で、統計学や数学も意欲的、自発的に勉強できる。
- (2) 自分で積極的に論文のテーマを探ることができる。
- (3) ゼミ内で与えられた仕事は責任を持ってやる。

という学生を歓迎します。私のゼミでは自主性を重視していますので(やや放任ぎみなかもしれませんが)、何事も積極的に取り組んでいける学生を期待しています。

3. 選考について

1 募集人数:

特に制約は設けていませんが、だいたい毎年 10 人から 15 人くらいの間です。

2 選考内容:

面接、試験を行います。成績表も提出してもらいます。

3 他学部、PEARL 生受け入れ:

他学部の人でも受け入れます。また PEARL 生については、ゼミは日本語で行うのでそれでもかまわないということであれば受け入れ可です。

4. 選考基準:

3 の 2 の内容の結果を見て総合的に判断します。

入ゼミについての情報は、私のホームページ:

<http://user.keio.ac.jp/~nagakura/jindex.html>

やゼミ生が運営するゼミのページ:

<https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com/> に随時情報を載せていきます。

星野崇宏研究会

——計量経済学・機械学習・行動経済学とその応用

(マーケティングや経営、政策での活用) ——

1. 研究分野

これまで統計学・計量経済学・機械学習の脳科学・公衆衛生など様々な分野への応用企業の顧問や共同研究を行っており、企業様々なデータを研究室で利用することが可
ールド実験、学生を対象とする調査や経営
る場とノウハウを研究室として有
しています。

このような経緯から当研究会では、基礎
ケティング応用など、より実践的な研究に
践を両立し、磨きあう場となることを目指
分野に関心のある学生を指導可能です。

【基礎的な分野】統計学と計量経済学/いわ
の間領域) / 行動経済学と心理学(ヒトの
思考

【応用的な分野】 マーケティング:対象は
ビス、政府公共機関、NPO、音楽事業など
学や、公共マーケティングへの応用/人的資
調などの社会現象の経済学的理解/教育や
用計量経済学 上記はバラエティに富んで
実証的なアプローチを用いた経済・経営・人
しません。

2. 学生への要望

経済のグローバル化と技術革新、産業構
今後本学部を卒業しても将来が完全に保証
所属する組織がどこであれ自分の力で活躍
な人材として育てていただくために、当研
を身につけてもらいたいと思います。

3. 選考について

- ① 募集人数：行動経済マーケティング
- ② 選考内容
ES・レポート・面接・成績表

基礎研究と、マーケティング・行動経済学・
研究を行ってきました。また、様々な分野の
への企画提案や、企業から提供いただいた
能です。さらに店舗や EC サイトでのフィ
者・担当者へのインタビューなどを実施す

的な研究だけでなく企業や公共分野のマ
関心のある学生も歓迎しており、理論と実
しています。当研究会では下記に記載する

ゆるビッグデータ解析(統計学と機械学習
非合理性と行動の傾向の理解) / デザイン

金融、消費財メーカー、小売業、Web サー
/行動経済学の応用：特に企業・組織の経済
資源管理や組織行動などの経営学/流行や同
医療など応

いますが、データ・統計学・数理モデルなど
間行動の研究についてであれば対象は限定

造の変化のペースは一段と早くなっており、
されるわけではない時代が来るでしょう。
し、所属組織さらには社会に貢献する有為
研究会では時代によらず必要とされる力

班・解析班合わせて 18~20 名程度

③ 他学部入ゼミ、PEARL 生受入の可否

他学部可・PEARL 生受け入れ可

(但し、日本語で参加可能な場合に限る)

④選考基準各自の関心事項に対して学び実践する意欲と積極性を重視します。(マーケティングなど実践的な内容に関心のある学生、統計学やビックデータ解析に関心と適性のある学生、行動経済学を政策に活かしたい学生)

国際金融論

竹森俊平研究会

竹森俊平研究会

1. 研究分野

Macroeconomics, International Economics, Economic History, Financial Crisis.

2. 学生への要望

Great Economists are good story tellers too. This is because Economic Theory is an art which strives to condense the essence of the complex economic/social environments around us into a simple story (the economic model). I have only one year until my retirement. Yet, I would be able to give advices to you in this short span of time on how to create your own story from careful observations of our economic/social environments. I am looking for positively minded, active, energetic and analytically minded students.

3. 選考について

1 募集人数

Maximum is 15.

2 選考内容

Our student representative will give you the detail. Basically, you are supposed to read an article by the great economic

historian, Douglass North, and reconstruct its idea in your own writing style. I have also added other articles and books that you might have to read to extend the scope of your vision.

3 他学部入ゼミ： No

PEARL 生受入れの可否： OK

4 選考基準

I read your report your carefully to judge whether you are suitable for participating in our project.